

令和7年9月1日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 長 渕 豊

研 修 報 告 書

以下の研修について、次のとおり報告します。

- 1 研修名 議会広報研修会
- 2 研修先 北海道町村議会議長会
- 3 研修日 令和7年8月19日（火）
- 4 研修事項 講演 「議会の『見える化』&住民との『信頼築く』
議会広報の基本と編集」
議会広報クリニック（増毛町議会・苫前町議会・天塩町議会）
参考資料（仁木町議会・鷹栖町議会）

5 成果

講師は、議会広報サポーター：芳野 政明 氏 による講演。

議会広報の役割は、住民の福祉や暮らしに関わる議会の活動状況を知らせ、政策・制度への関心を高め、議会が何をしているか知ってもらうことで、住民と議会のつながりを実感してもらえるものとなります。

しかし、読まれているのか、伝わっているのかが大きな問題・課題であります。そのために、議会広報は進化させなければなりません。

まず、手に取りたくなる表紙は重要で、視覚的に惹きつける写真やイラスト、図案はアイキャッチではなく、メッセージ性やテーマ性、季節感などで読者が想像でき、目を引く表紙でなければなりません。

また、同時に本誌のおすすめコンテンツなど内容が表紙に飛び出し、見やすい見出しになっている事も重要です。

本誌の中身に入ってみると、単なる議会報告だけではなく、住民参加を促す議会広報になっていなければなりません。

①住民読者を念頭に住民目線の企画編集が必要です。住民が自己の生活と議会の諸活動がつながっていることを周知。

②「カタイ、難しい！」から「読みたくなる情報誌」とするために、内容が硬い、用語

が難しいを解決し、読む気になれないからの脱却が必要。

③住民参加・協働の広聴企画で「自分ゴト化」へ導くために、議会と町民との一体化の推進へ。読者ニーズに応える企画編集。

④他の広報媒体と連携・補完・分担など駆使し、限られた紙面での情報提供の不十分さを克服する広報計画。

これらを踏まえ、読まれ、親しまれ、役に立つ、住民目線の編集で、住民の知りたいこと、興味関心に応える企画。わかりやすく、読者を主役にした編集を追求し、住民と双方向性コミュニケーションのツールになり得る広報紙を目指し、更に議事・議会活動を的確に伝えるために、自治体の課題や施策、多様な意見、論点・争点の整理編集した情報を住民と共有し、議会の活性化を図る。

また、読みたくなる紙面と言う事では、読者の視線誘導、わかりやすいを追求するために住民が登場する紙面をつくり、「カタイ・難しい、読みたくない」からの脱却をするために、見出しが的確、読みやすく、わかりやすい。視覚的で文字情報とのバランスなどの編集は重要な要素となり得ます。

議会広報クリニックの研修では、実際の町村の広報紙をもって、読まれ、親しまれるための改善点などについて示していました。

文字ばかりで、とても読む気になれない広報紙への指摘や、動きのない写真や、見ることをあきらめさせるような細かいグラフや図面など、確かにその通りと思いました。

中標津町の議会だよりを見てみると、真面目で、カタク、難しい感じは若干しますが、的確に情報を広報しているという面では良いと思いますが、文字数が多いことから読まれ難さもあるのかと反省し、QRコードを駆使して文字数の削減を図れないか、更に表やグラフ、図面などについては特に工夫する必要がある、グラフを大きく表示しコメントは最小限、伝えたい事だけにし、詳細はQRコードでの対応が必要で、もっと視覚的に訴える事が出来ないか検討していきます。

また、見てもらえる、読まれるためのキーワードはその時々住民の身近に起こっている出来事、伝染病や気になる病気、衣食住に関する住民サービスなど、知りたい、見てみたいを誘発するような見出しやキャッチフレーズが必要であることがわかり、自分自身に置き換えて客観的に見る事が重要と研修してきました。

今後、中標津町議会だより編集にあたっては、今回の研修成果を充分に取り入れ、発揮できるように委員会で検討していきます。